

激選 考委員

激賞!!

パラノイアックな人物の視点を
描ききる勇気と高度な文章技術。

新人離れした作品。

小川哲

誰が存在したかも、語り手の
性別すらも明示されないあいまいさ。

たしかなことが
何ひとつないからこそ、
この小説は強い。

角田光代

尋常の景色、おそらくは平穏で退屈な
田舎の景色をそのまま描いて
異常の景色となす不思議な筆力。

美事だった。

町田康

特別な文体と出会う喜びを覚え、
言葉自体に強烈に惹きつけられた。

この作品が宿している
ものの大きさに、
ただただ圧倒された。

村田沙耶香

第61回

文藝賞
受賞作!

10年ぶりに故郷を訪れた「わたし」。
死んだはずの幼馴染の声が——。

圧倒的異才 待川匙
まち かわ さじ

光のそこで白くねむる